資料

イトウクロバエ *Melinda itoi* Kano,
1962 (Calliphoridae, Diptera)

幼虫のナメクジ寄生例

堀 栄太郎 山口 勝幸

埼玉医科大学寄生虫学教室

(〒350-04 埼玉県入間郡毛呂山町毛呂本郷38)

(受領：1984年1月23日)

A brief note on the parasitism of the
larva of *Melinda itoi* Kano, 1962
(Calliphoridae, Diptera) to a slug

Eitaro HORI and Katsuyuki YAMAGUCHI

Department of Parasitology, Saitama Medical
School, 38 Morohongo, Moroyama-cho,
Iruma-gun, Saitama 350-04, Japan

Key words: *Melinda itoi*, parasitism, slug,
Incilaria bilineata.

日本の陸産軟体動物には農業上、また衛生上重要な種類が少なくない。とくに、近年になって、多くの種が好酸球形髄膜脳炎をおこす広東住血線虫の中間宿主となることが、野外で、あるいは実験的に知られるようになり、衛生上の重要性が高まっている。著者らは、広東住血線虫の感染実験に供するために、しばしば各種の軟体動物を野外で採集して飼育している。その間に、ナメクジ *Incilaria bilineata* (Benson) から寄生バエ幼虫をえた。この寄生バエがナメクジからえられたのは初めてで、また著者らの知る限り、わが国でナメクジから寄生バエがえられた例はないと思われる。天敵昆虫の一つとして記録して参考に供したい。

ナメクジの採集地と飼育

ナメクジは、1976年3月25日、埼玉県入間郡毛呂山町大谷木（低山地の谷間の村落：Fig. 1）で、小川のほとりに立つ梅の古木の樹皮の割れ目に潜んでいたものを採集した。

ナメクジの飼育は、25℃の飼育室内で、直径90 mm、高さ70 mmの腰高シャーレを用いて行い、湿度を十分に保つために、蓋と容器の間に、水で湿らせた濾紙をはさんで密閉状態とした。また、餌はネズミ用の固

Fig. 1 A view of the village where the host slug, *Incilaria bilineata* (Benson), was collected.

Fig. 2 The adult flies (males) of *Melinda itoi* Kano, 1962 obtained from the slug, *Incilaria bilineata* (Benson).

型飼料を粉末として与えた。

寄生バエ出現時の状況

飼育開始後3日目（3月28日）に、ナメクジの1匹が疲弊しているように見受けられたので注意してみたところ、体内にうごめくものを認めた。さらに2日後に、容器の底に囲蛹を2個見いだした。囲蛹を、湿らせた園芸用土（パーミキュライト）を入れたシャーレ内に放置し、12日後（4月11日）に、シャーレ内に成虫2匹をえた。この成虫は、東京医科歯科大学、加納六郎教授に同定をお願いし、形態的特徴からクロバエ科のイトウクロバエ *Melinda itoi* Kano, 1962の雄と同定された (Fig. 2)。

考察

イトウクロバエは Kano (1962) によって記載され、その後 Kano and Shinonaga (1965), Kurahashi (1965), Kano and Shinonaga (1968) らにより、主として形態、分類、分布に関する記述がなされている。

伊藤 (1962) は本種が、各種花卉、蔬菜類や桑樹に被害を与えるウスカワマイマイ *Acusta despecta* (Sow-erby) の防除を考える上で有力な寄生バエであるとの立

場から、その生態を調べており、1匹のウスカワマイマイに1～3匹のハエ幼虫が寄生すること、蛹の期間は約10日であること、第1化の成虫は3～4月、第2化の成虫は7月上旬から羽化しはじめること、大阪南部で30%の寄生が認められたことなどを述べている。

これらのことから、今回のナメクジからえられた成虫は、宿主は異なるものの、第1化のものに相当すると考えられる。また、ウスカワマイマイへの高寄生率から推して、今回の採集地において、同貝への寄生が通常で、ナメクジへの寄生はごくまれな、(すなわち偶発的な寄生の)例なのかもしれない。今後、機を見て、ナメクジへの寄生の多寡について調べてみたいと考えている。

おわりに、寄生バエの同定をしてくださった加納六郎教授と、文献についてご教示くださった大阪府立大学伊藤修四郎教授に感謝の意を表します。

引用文献

- 伊藤修四郎 (1962): 寄生蠅によるウスカワマイマイの防除. 文部省学術研究報告(農学), p. 25.
- Kano, R. (1962): Notes on flies of medical importance in Japan, Part XIV. Three new species of the genus *Melinda* (Calliphoridae, Diptera) from Japan. *Jap. J. Sanit. Zool.*, **13**: 1-6.
- Kano, R. and S. Shinonaga (1965): *Illustrated keys to adult filth flies of Japan* (Addendum to annual professional report for 1965), pp. 1-19 with 23 pls., 406th Medical Laboratory, Zama.

Kano, R. and S. Shinonaga (1968): *Paradichosia itoi*, Calliphoridae (Insecta: Diptera) in *Fauna Japonica*, pp. 40-42, Biological Society of Japan, Tokyo.

Kurahashi, H. (1965): Studies on the calypterate muscoid flies from Japan IV. Revision of the genus *Paradichosia*, with description of two new species (Diptera, Calliphoridae). *Kontyû*, **33**: 46-52.

Summary

Two males of the parasitic calliphorid fly *Melinda itoi* Kano 1962 were obtained from the slug, *Incilaria bilineata* (Benson) in April, 1976. The slug was one of those which were collected on March 25, 1976 in the cracks of the bark of an old *Ume*-tree (*Prunus mume* Sieb. et Zucc.) growing beside the brook of a hilly village (Ohyagi, Moroyama-cho, Saitama) and kept alive in our laboratory at 25°C from that time on.

The movement of the maggots in the slug body was recognized three days after collection. Two days after that, they came out of the slug and pupated on the bottom of the glass container. After 12 days (April 11), the adult flies appeared. So far as we know, this is the first case of the parasitic fly emerged from the slug in Japan.